

以前、はりまメンタルクリニックおよび
あべメンタルクリニックにて
「トランスジェンダーの唾液中ホルモン濃度の特徴
およびホルモン療法の影響に関する研究」
にご参加いただいた方へ

我々は性同一性障害／性別違和／トランスジェンダーのホルモン投与治療による効果および副作用等の解明のために、研究を進めております。今回、下記項目に当てはまる方からいただいた資料、唾液試料、音声データを東京大学医学部附属病院内の研究施設にて解析させていただきます。

【対象となる方】

2008年8月～2014年3月の間にはりまメンタルクリニック、あべメンタルクリニックで性同一性障害と診断されホルモン投与治療を受けた者、また性別違和感を主訴に来院したホルモン投与治療を受けていない者

【研究の意義】

ホルモン投与治療、特に男性ホルモンであるエナント酸テストステロンの投与によって、身体の男性化（月経の停止、ひげやその他体毛の増加、音声の低下、筋肉の増量等）が生じることは過去の研究により示唆されていますが、そのより詳細な変化の時期・内容、また治療による満足度等を包括的にみた研究はこれまでにありません。身体面での変化および心理的变化を定期的に確認したデータの解析により、より良い投与治療を行うための指針が得られるのではないかと考えられます。

【研究の目的】

ホルモン投与治療中、および非治療の性同一性障害／性別違和／トランスジェンダーの者に焦点をあて、これまでに収集されたデータを用い解析を行うことで、現在行われている治療のより詳細な効果・副作用を明らかにします。

【研究の方法】

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、東京大学医学部倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでにはりまメンタルクリニックおよびあべメンタルクリニックで「トランスジェンダーの唾液中ホルモン濃度の特徴およびホルモン療法の影響に関する研究」にご参加いただいた方のデータを多角的に解析して行う研究です。特に新たにご負担いただくことはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は、下記の研究事務局まで 2017 年 4 月 30 日までに御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後 5 年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたします。下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

2016 年 3 月

【研究機関名】

東京大学医学系研究科ユースメンタルヘルス講座

研究統括医師：東京大学大学院医学系研究科ユースメンタルヘルス講座

特任准教授 荒木剛

東京大学医学部附属病院が主たる研究施設となっています。

本研究に必要な資金は、研究母体（医学系研究科ユースメンタルヘルス講座）から支給される寄付金を当講座にて管理・運用します。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。尚、あなたへの謝金はございません。

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学系研究科ユースメンタルヘルス講座

特任助教 正岡美麻

住所：東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5800-9529（内線33625） FAX：03-5800-6894

Eメールでのお問い合わせ：mio-masaoka@umin.ac.jp